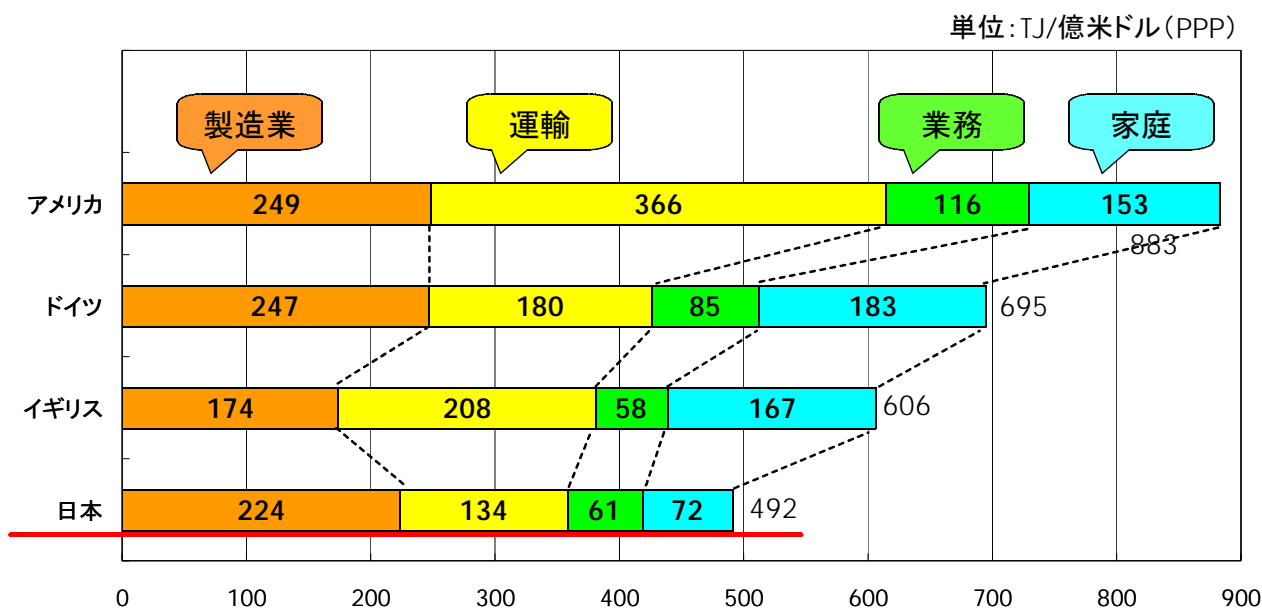
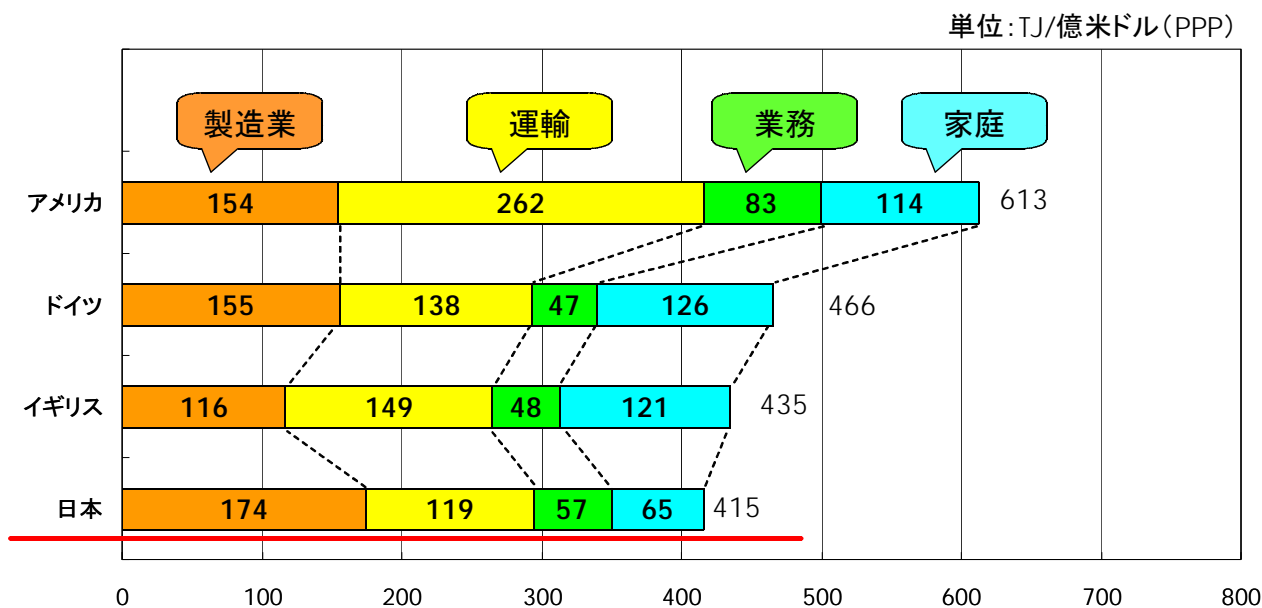


(図5：1990年のGDPあたりの部門別エネルギー消費量（購買力平価基準））



(出典)IEA: Energy balance of OECD countries,
OECD; National Accounts

(図6：2000年のGDPあたりの部門別エネルギー消費量（購買力平価基準））



(出典)IEA: Energy balance of OECD countries,
OECD; National Accounts

(注)

※ 金融商品の国際需給や、投機、金利の変動に左右されない基準として購買力平価を基準として国別比較をする場合、国際競争力の強い貿易財を有する国においてはGDP値が小さく評価される傾向にあり、この影響を考慮する必要がある。また、貿易財の影響の強い部門の評価に当たっては、当該部門は為替レートを行動基準としている点を考慮する必要がある。

なお、エネルギー消費量は産業構造・国道面積・家屋面積・気候など様々な要因に左右されることから、全体又は部門別のエネルギー消費量の国別比較は、エネルギー効率のみに左右されるものではないことに留意する必要がある。